

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-256	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
2 東書	論 I 701	NEW FAVORITE English Logic and Expression I		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第2条の目的および理念を踏まえ、その目標達成を可能にし、かつ、論理・表現 I に示される目標に達するため、以下を編修の基本方針としました。

① 3領域（やり取り、発表、書くこと）の育成に適した日常的・社会的な場面の活動を通して、本物のコミュニケーション力を育成する教科書

- ・すべての Lesson において、生徒がコミュニケーションの目的や場面を明確に意識しながら言語学習を進めることができます。
- ・コミュニケーションのモデルとしてふさわしい英語を提示し、実践的な表現に触れながら学習することができます。

② 失敗することを恐れずに、発信する態度を養う教科書

- ・すべての Lesson において、モデルの提示に先んじて、まず英語での発信に挑戦するコーナー Give It a Try を設けることで、生徒の発信への関心、意欲を喚起することができます。

③ 「まねる」から一歩踏み出し、テーマを「自分ごと化」して考え、発信できる力を育む教科書

- ・モデルを学習したのち、さまざまな語彙や表現に触れ、みずからの英語のリソースを拡張するコーナー Expand Your English を設置し、生徒が発信を「自分ごと化」しやすいようにしています。
- ・Give It a Try の活動に刺激を受けたり、Expand Your English の支援を利用したりすることで、生徒がモデルの「まね」から一歩踏み出し、「自分ごと化」して発信できるようにしています。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全体	<p>① さまざまな題材を扱い、目的や場面、相手に応じて論理的、効果的に伝える方法を学ぶことで、幅広い知識と論理的な思考力を養います。(第1号)</p> <p>② 言語活動を通して、他人の価値観や意見を尊重しながら、自分の考えに基づき積極的にコミュニケーションできる態度を養います。(第2号)</p> <p>③ ペアやグループで協力して行う言語活動を豊富に用意することによって、自他を大切に、協力し合う心を養います。(第3号)</p> <p>④ 持続可能な社会について日常生活の中で議論し、改善策を提案させる言語活動を通して、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養います。(第4号)</p> <p>⑤ 国際社会の平和と発展を目指す上で、他国との相互的で健全なコミュニケーションが一層求められる現在において、自国の伝統や文化について知り、それを他国に向けて発信する能力を養います。(第5号)</p> <p>⑥ 日本語の論理と英語の論理の違いや、日常的な常識の違いを学ぶことで、自国の文化を見つめ直すとともに、他国の文化を理解し、尊重する心をはぐくみます。(第5号)</p>	<p>① Unit 1, 2 各 Lesson の Model</p> <p>② Unit 1, 2 各 Lesson の Make Your Own</p> <p>③ Unit 1, 2 各 Lesson の Give It a Try および Make Your Own</p> <p>④ Unit 1 の Lesson 11, 12 および Unit 2 の Lesson 1, 2</p> <p>⑤ Unit 2 の Lesson 3-5, 8</p> <p>⑥ Unit 1 の Lesson 4, 5-7, 8, 10 および Unit 1, 2 各 Lesson の TIPS</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 生徒の自立的な学びを促す取り組み

図書の構成・内容	留意点	該当箇所
巻頭 コラム 巻末	<p>① 文法について、「表現する」という視点でまとめられた構成を通して学習することで、日本語と異なる英語の特色に気づき、みずからの知識をさまざまな視点で整理することを促せるように配慮しています。</p> <p>② 英語での句読法や数字の読み方を学ぶことで、コミュニケーションをより正確なものにしようとする態度が養えるよう配慮しています。</p> <p>③ ディベートを学ぶ理由や目的について読むことで、文化の異なる人々とわかりやすいコミュニケーションの方法をみずから探求しようとする態度が養えるよう配慮しています。</p> <p>④ 各 Lesson のモデル文から参照記号をたどることで、当該の文法事項について、表現する際に間違いやすいポイントをみずから学習できるように配慮しています。</p>	<p>① 「英語で表現するには」(pp.6-11)</p> <p>② p.12 および p.136</p> <p>③ p.86</p> <p>④ 「〈付録〉ちがいがわかる伝わる英文法」(pp.137-167)</p>

② 教育の ICT 化への取り組み

図書の構成・内容	留意点	該当箇所
全体	<p>① 各 Lesson のモデル文に付した二次元コードを機器で読み取ることで、手軽にモデル文と重要フレーズの音声を聞けるため、学校でも家庭でも音声を活用した学習ができます。なお、音声には URL からアクセスできます。</p> <p>② 「やり取り」「発表」を中心に扱う Lesson では、モデル文に付した二次元コードを機器で読み取ることで、手軽に当該 Lesson のモデル文の動画を視聴することができるため、学校でも家庭でも動画を活用した学習ができます。なお、動画には URL からアクセスできます。</p>	<p>① Unit 1, 2 各 Lesson の Model</p> <p>② Unit 1 の Lesson 1-5, 7-11 および Unit 2 の Lesson 1-5</p>

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-256	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	論 I 701	NEW FAVORITE English Logic and Expression I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

■全体構成

- ・「やり取り」「発表」「書くこと」の3領域のバランスに配慮して、全体で20のLessonを2つのUnitに分けて構成しています。

Unit 1は、主人公の高校生がアメリカに留学したストーリーを中心にするこ
とで、高校生の日常の場面を通して、コミュニケーションを学べるようにし
ています。

Unit 2は、さまざまな話題について、技能ごとに集中的に学習することで、
発信力をより強化できるようにしています。

20のすべてのLessonで状況を明確に設定し、生徒がコミュニケーションの目
的や場面を明確に意識しながら言語学習を進めることができるようにしてい
ます。また、コミュニケーションのモデルとしてふさわしい英語を提示し、
より実践的な表現に触れることができるようにしています。

- ・Unit以外に、コミュニケーションの支えとなる文法への気づきを促すパート
を巻頭と巻末に設置しています（巻頭「英語で表現するには」、巻末「〈付録〉ち
がいがわかる伝わる英文法」）。

■各パート

① 英語で表現するには

- ・英語の基本について、「表現する」という視点で振り返ることで、日本語
と異なる英語の特色に気づき、みずからの文法的知識をさまざまな視点で
整理することができるよう構成しています。

② Lesson

a. Warm-up

- ・Lessonの内容に関連するQ&Aや語彙に関連する活動などに、クラス全
体、ペア、グループで取り組むことで、Lessonの内容への興味、関心を
高められるようにしています。

b. Give It a Try

- ・ **Lesson**の**Model**に取り組む前に、まず英語での発信に、ペアやグループなどで取り組むことで、みずからの英語力の現状を把握し、コミュニケーションへの関心、意欲を喚起できるようにしています。

c. Model

- ・ **Lesson**の内容に関連するコミュニケーションのモデルです。**TIPS**や付属の**Task**では、英語の論理や表現を学習することができます。また、巻末「〈付録〉ちがいがわかる伝わる英文法」を参照することで、発信に役立つ文法的知識を学習することができます。

d. Expand Your English

- ・ **Lesson**の最終**Task**である**Make Your Own**に向けた語彙と表現の支援です。扱いやすいよう**Word Focus**、**Expression Focus**の2つに細分化し、**Make Your Own**の活動が取り組みやすくなるように工夫しています。

e. Make Your Own

- ・ **Lesson**の最終**Task**である自己表現活動です。**Give It a Try**や**Model**でのコミュニケーション活動、**Expand Your English**の支援を通じて、みずからの発信力の上達を実感できるように工夫しています。

③ 〈付録〉ちがいがわかる伝わる英文法

- ・ 表現する際に間違いやすい文法のポイントを学習しやすいようにまとめています。**Lesson**のモデル文から参照記号をたどることで、レファレンス性を高め、授業での利用や家庭学習での利用などに対応できます。

④ コラム

a. 英語の句読法・数字の読み方

- ・ 英語での句読法や数字の読み方を学ぶことで、コミュニケーションをより正確なものにすることができます。

b. ディベートを学ぶにあたって

- ・ ディベートを学ぶ理由や目的について読むことで、文化の異なる人々とわかりやすいコミュニケーションの方法を、みずから探求しようとする態度を養うことができます。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所	配当 時数	
	2 内容	3 内容の 取扱い			
英語で表現するには	(1) ア(イ)	3	6-11	3	
英語の句読法	(1) ア(イ)	3	12	0	
Unit 1	Lesson 1	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(ア), ②ア(ア), イ(イ)(エ)(オ)	3	14-19	3
	Lesson 2	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(ア), ②ア(ア), イ(ウ)(エ)(オ)	3	20-25	3
	Lesson 3	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①イ(ア), ②ア(ア), イ(ウ)(オ)	3	26-31	3
	Lesson 4	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(ア), ②ア(ア)(ウ), イ(ウ)(エ)(オ)	3	32-37	3
	Lesson 5	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(ア), ②ア(ア)(ウ), イ(ア)(ウ)	3	38-43	3
	Lesson 6	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ウ(ア), ②ア(ア), イ(イ)(ウ)	3	44-49	3
	Lesson 7	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(ア), ②ア(ア), イ(エ)(オ)	3	50-55	3
	Lesson 8	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(ア), ②ア(ア), イ(イ)(ウ)(エ)	3	56-61	3
	Lesson 9	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①イ(ア), ②ア(ア), イ(イ)(ウ)	3	62-67	3
	Lesson 10	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(ア), ②ア(ア), イ(イ)	3	68-73	3
	Lesson 11	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(イ), ②ア(ア), イ(イ)(エ)	3	74-79	3
	Lesson 12	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ウ(イ), ②ア(ア), イ(ウ)(エ)	3	80-85	3
ディベートを学ぶにあたって	(1) ア(ア)	3	86	0	
Unit 2	Lesson 1	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(イ), ②ア(ア)(イ), イ(ウ)(エ)	3	88-93	3
	Lesson 2	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ア(イ), ②ア(ア)(イ), イ(ウ)(エ)	3	94-99	3
	Lesson 3	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①イ(イ), ②ア(ア), イ(ウ)(オ)	3	100-105	3
	Lesson 4	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①イ(イ), ②ア(ア)(イ), イ(ウ)(オ)	3	106-111	3
	Lesson 5	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①イ(イ), ②ア(ア)(イ), イ(ウ)(オ)	3	112-117	3
	Lesson 6	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ウ(イ), ②ア(ア), イ(ア)(ウ)(エ)	3	118-123	3
	Lesson 7	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ウ(イ), ②ア(ア), イ(ウ)(エ)	3	124-129	3
	Lesson 8	(1) ア(ア)(イ) (2) アイ (3) ①ウ(イ), ②ア(ア), イ(ウ)(エ)(オ)	3	130-135	3
数字の読み方	(1) ア(イ)	3	136	0	
〈付録〉ちがいがわかる伝わる英文法	(1) ア(イ)	3	137-167	0	
			計	63	

*「〈付録〉ちがいがわかる伝わる英文法」は家庭学習や授業での参照資料としての利用を想定しているため、配当時間を当てていない。